

2019年11月25日発行

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 83 「SNS と人とのつながり」 葦原 摩耶子 (神戸親和女子大学)

1) 学会からのお知らせ (<http://jahp.wdc-jp.com/>)

■公認心理師関連シンポジウムのお知らせ (学会事務局)

日本心理学諸学会連合事務局から12月15日に公認心理師のシンポジウムを開催する連絡がありましたので、ご案内いたします。pdfファイルとしてチラシを添付しましたのでご覧ください。

■ヘルスサイコロジスト80号&号外の発行 (広報委員会)

ヘルスサイコロジスト80号および号外を添付にてお送りいたします。今回は、通常号に加えて、田中共子新理事長の所信表明を掲載した号外もございますので、ご覧いただけますよう、お願いいたします。

2) 健康心理学コラム Vol. 83

「SNS と人とのつながり」

葦原 摩耶子 (神戸親和女子大学)

卒業論文の締め切りを控え、教員も学生も忙しい時期がやってきました。学生の興味は多様で毎年どんなテーマに取り組んでくれるか楽しみになっているのですが、今年人気のテーマはSNS (ソーシャルネットワークワーキングサービス) です。20代のスマートフォン保有率は94.5%でSNSの利用者も74.4%と高く (総務省, 2018)、彼女たちにとって身近なことが一因でしょう。

SNS を用いることによって、簡便に双方向で即時性の高いコミュニケーションをとることができます。やり取りできる内容も、テキストに加えて写真や短い動画など豊富です。面倒な操作無しに、いいねボタン一つで共感を示すことができます。人と人との新しいつながりを創り出し強化するツールとしてさらなる発展が見込まれますし、カウンセリングや健康教育の新しい場としての活用も増加すると予測されます。

その反面、「既読スルー」「SNS 疲れ」などの言葉に代表されるように、SNS 上でのトラブルが増加しており、依存による悪影響も懸念されます。心地よいつながりになるか否かの境目は、利用時間、目的、方法、相手などどこにあるのでしょうか。情報通信白書では、参加しているコミュニティに対する紐帯の強さの評価結果から個人の「つながり力」を算出し、オンラインとオフラインの両方でつながっている者のほうがどちらか片方の者より「つながり力」が高いことが報告されており (総務省, 2018)、現実場面と SNS 上でのつながりのバランスが一つの鍵になりそうです。周囲の人との関係や新しいメディアとの付き合い方を考えながら、卒論の完成を待ちたいと思います。

引用文献

総務省 (2018). 平成 30 年版情報通信白書 Retrieved from <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/pdf/30hopen.pdf>

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 <jahp-post@bunken.co.jp>

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 <jahp-ML@bunken.co.jp>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>